

めざす学校像・子ども像・教員像		課 題	今後の改善方策
○幼児の主体的な思いや考えが大切にされる幼稚園 ○「がんのすっ子の5つのやくそく」を守り、思いやりのあるやさしい子ども ○自主的・創造的に教育活動に取り組み、経営参画の意識を持って、協働体制のもと、目標の具現化に努める教師		閉園のため無し	閉園のため無し
		閉園のため無し	閉園のため無し
		閉園のため無し	閉園のため無し
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
「がんのすっ子の5つのやくそく」の定着をめざす。～「はきものそろえ」を重点的に～	「がんばりカード」年5回実施	○がんばりカード年5回実施も行い、定着している。全部○の子どもも18人と増えている中、×がなかなか減らない子どももいる。 ○幼稚園と家庭との連携の必要性がみえてきた。3年目となり、全体的には80%を超え定着が見られるが、それは園児家庭共に慣れてきたと共に、中だるみの状況もある。子ども達の意識が継続できるように、家庭に任せるだけでなく、幼稚園でも目標を持たせたり、達成感を持たせる工夫が必要となってきた。 ○定期的に「はきものそろえ」ができている姿を写真に撮ることは、教師自身が「はきものそろえ」を意識する事につながった。	
	「がんばりカード」の保護者への結果報告年5回		
	「がんばりカード」の達成率70%以上		
	定期的に「はきものそろえ」ができているところを写真に撮り、子ども達に紹介する。		
「人とかかわる力」を育てることにより「思いやりのある子ども」をめざす。	今年度新たに同年齢の金武幼稚園年長児との交流を2回おこなう。	○年長児1クラスという現状から少しでも様々な交流ができるよう、金武幼稚園年長児との交流を2回、きらきら星との交流を5回行った。交流自体は、子ども達にとって、刺激にもなり、意義があった。 ○保護者アンケートによる肯定的回答は「思いやり」も「人とかかわる力」も3学期は、80%を越えた。「思いやりのある子ども」の方が保護者のポイントは高い。 ○人とかかわる行事も大事だが、遊びを通して力を合わせる体験や相手のことを考える体験がもっと必要ではないかと感じた。	
	きらきら星との交流を5回に増やす。		
	保護者アンケートによる「人とかかわる力」「思いやりのある子どもの育成」に対する肯定的回答が80%を越える。		
	0		
一人ひとりのニーズに応じた教育内容や支援計画の工夫の推進	週案打ち合わせを利用して1週間に1度は、情報交流をおこない、一人ひとりの実態を把握する。	○一人ひとりの実態を把握することには、努力してきたが、具体的な支援が難しい。 ○東部療育センターと連携を図り、学期に1度研修会を持つことができた。実際に関わることの多い支援員と共に研修ができたことに、意義があった。具体的な援助の方法を学べる機会となった。しかし、効果は、長続きせず、園側の応用していく力が必要であった。 ○日常的に様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりすることで家庭との連携を続けていった。	
	東部療育センターと連携を図り、支援員と共に研修をする。		
	日常的に様子を伝え、保護者と連携すると共に就学を意識して定期的な懇談会を行う。		
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○はきものそろえについては、定着は難しい。カードも有効だが、家庭の協力が必要だろう。家族みんなではきものそろえができると、一番よい。 ○金武幼稚園との交流は、両方の園児にとって、楽しい活動となったようだ。最後の年ならではの体験となったのではないか。 ○配慮が必要な子どもの教育は、どう援助すると有効なのか一人一人違うので、難しい。そのためにも教師が研修を積み重ねることが大事である。東部療育センターとの連携は、よい研修となったことと思う。 ○一人一人の子どもを見ていると、成長したと感じる。			